

1873年、ウィーンの証券取引所での株価暴落と金融危機から、世界経済は1890年代半ばまで続く「大不況」期に突入した。この時期に列強は第二次産業革命で重化学工業化を達成し、独占資本主義が成立した (No.158参照)。1890年代以降、世界は市場と資源の確保を目的として植民地を争奪する帝国主義の段階に突入した。列強体制は分裂し、イギリス・ドイツの対決を軸にイギリス・フランス・ロシアとドイツ・オーストリアの対抗関係が形成された。全ての列強の利害が交錯するバルカン半島及びオスマン帝国が危機の焦点となった (No.164参照)。

**バルカン問題** 文中のa～eは図1の国または地域を指す。No.146参照

- 1) 1908年、オスマン帝国で立憲制を宣言する【1: 】が起きると、混乱に乗じてスラヴ系の【2: 】がオスマン帝国から独立を宣言。国内問題もあってスラヴ系勢力の台頭を抑えたいオーストリア=ハンガリー帝国は、ベルリン条約(1878)で行政権だけを得ていた【3: 】(g)を併合した。この地域はスラヴ人が多く住み、大セルビア主義を掲げ、スラヴ人地域の統合をねらっていた【4: 】(d)はオーストリア=ハンガリー帝国に猛反発した！ロシアも黙って見てはいない。これに対抗して、1912年、パン=スラヴ主義に基づき、ブルガリア (b)・ギリシア (c)・セルビア (d)・モンテネグロ (e)に【5: 】を結成させた。
- 2) 第一次バルカン戦争 1912-13年  
イタリア=トルコ戦争 ※に乗じてバルカン同盟諸国 (図1のb・c・d・e) がオスマン帝国に宣戦、勝利した。オスマン帝国から、イスタンブル付近を除くバルカン半島の領土の大半を奪い取った。しかし、ブルガリアがマケドニアを領有したことで同盟は分裂した。
- 3) 第二次バルカン戦争 1913年  
得た領土の分配をめぐる、ブルガリア (b) が他のセルビア (d)・ギリシア (c)・モンテネグロ (e) の3国、ついで参戦したルーマニア (a)・オスマン帝国と戦って大敗。1913年8月のブカレスト条約で多くの領土を失った。以後、ブルガリアとオスマン帝国はドイツ、オーストリア=ハンガリー帝国に接近した。
- 4) セルビアは、1878年にオスマン帝国から独立したスラヴ系の小国家にすぎなかったが、今や勢力を強め、パン=スラヴ主義の先頭に立って領土拡大を熱望し、西隣の【3】(住民の大半がスラヴ系)を併合したオーストリア=ハンガリー帝国との対決を深めた！一触即発で世界大戦に発展する構図はすでにできあがってしまった。バルカン半島は「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれた。

※ イタリア=トルコ戦争 (1911~12) とは、リビアをめぐる両国の戦争。イタリアはオスマン帝国に勝ち、ローザンヌ条約 (1912) でトリポリ・キレナイカの併合を承認させた。



## サラエヴォ事件

- 1) 1914年6月28日、【6: 】の首都サラエヴォでオーストリア=ハンガリー帝国の帝位継承者フランツ=フェルディナント大公と妻ソフィーが、パン=スラヴ主義者のセルビア人青年、プリンチプ (19歳) に銃撃、暗殺された！何故ボスニアにオーストリア=ハンガリー帝国の帝位継承者が現れたか。ボスニア・ヘルツェゴヴィナは1908年、オーストリア=ハンガリー帝国に併合され、その地で演習を実施する陸軍を閲兵するため滞在していた。夫妻を乗せたオープンカーが進路を誤り、方向転換のため停止した。偶然至近にいたプリンチプが車の側面にあるステップに飛び乗り、粗末な拳銃で大公を1発で射殺、前方座席の護衛を狙った2発目は妻に命中、妻もほぼ即死。彼は「大セルビア主義」を掲げる民族主義団体の一員だった。実は宿舎を出発した時にも爆弾を投げつけられ、負傷者をだしていた。この事件は、ゲルマン民族とスラヴ民族の民族的対立感情と、それを利用して帝国主義的勢力拡大を図ろうとしていたオーストリア=ハンガリー帝国とロシア帝国の対立であるバルカン問題の帰結であった。

プリンチプは未成年のため死刑を免れ懲役20年。肺病を病んでおり、自分の発した銃弾から始まった世界大戦が終結する前の1918年春に病死した。

【出題例】2006早稲田 (人科) サライエヴォで勃発したこの事件の背景説明として、誤りを含むものはどれか。

- a クリミア戦争以来、ロシアはパン=スラヴ主義を利用して、バルカン半島での勢力拡大を図っていた。
- b 1878年のベルリン条約でオーストリアはボスニア・ヘルツェゴヴィナの統治権を得た。
- c 暗殺犯の目的は、セルビアがオーストリア=ハンガリー帝国から分離独立すること。
- d 1912・1913年の第1次バルカン戦争で、バルカン同盟はオスマン帝国を破った。

正解はc！セルビアは1878年以降独立国である。

皇太子襲撃事件は日本にもあった。1891年、訪日中のロシア皇太子ニコライ (後のニコライ2世) に警備巡査の津田三蔵が斬りつけた大津事件である。政府は陳謝で事態を収拾、戦争には至らなかった。

- 2) 帝位継承者夫妻暗殺の報を受けた皇帝フランツ=ヨーゼフ1世は、セルビア人の実行犯の背後にはセルビア政府がいるとして、ドイツ帝国のヴィルヘルム2世から白紙委任を取り付けた上で、最後通牒を發した。セルビアがこれを拒否したことを受けて7月28日、セルビアに宣戦布告した。

# 第一次世界大戦勃発 1914年の夏

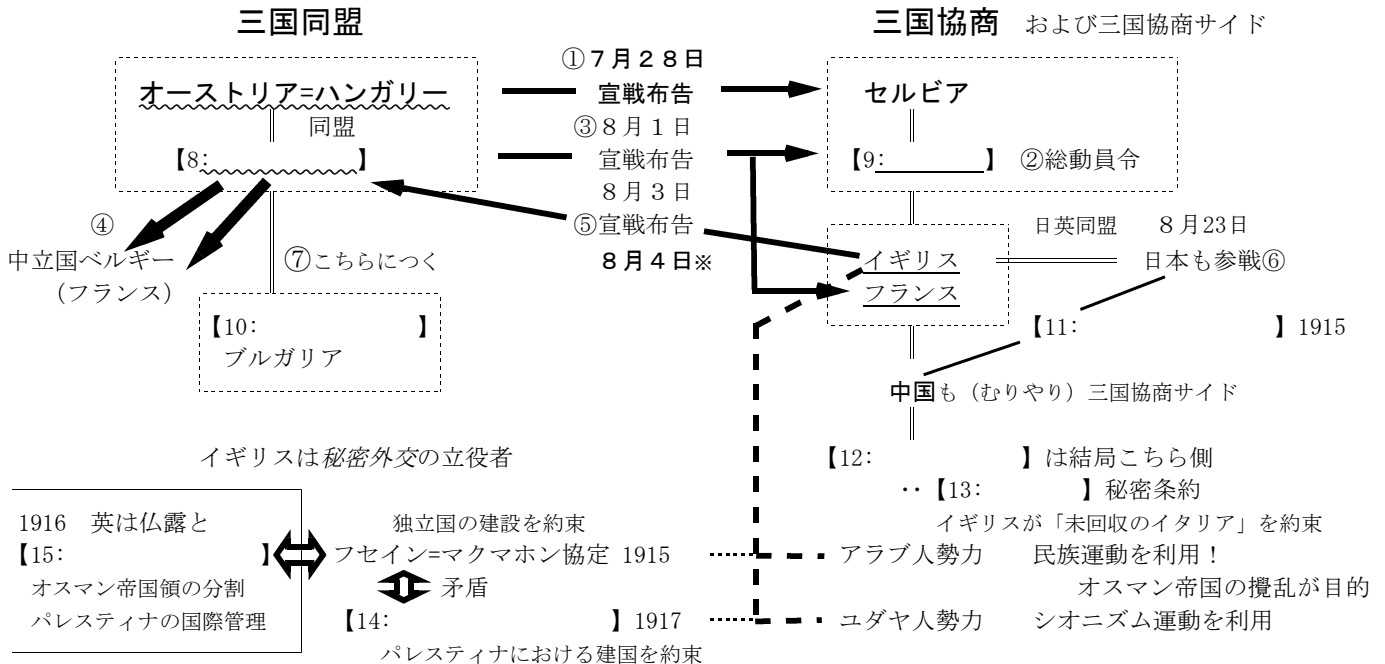
開戦 1914 行1く9人1死4なん世界大戦……戦死者1千万人！

終結 1919 みんな行1く9行1く9ヴェルサイユ…これは講和条約（戦闘終結は1918年）

1) 1914年6月28日の【7:

】事件が直接の発端 ①～⑦は生起順

以下のように、7月28日のオーストリア=ハンガリー帝国の宣戦布告から1週間で両陣営の全面戦争に発展した。

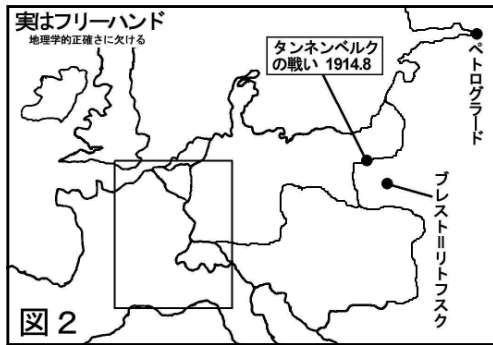


※ イギリス政府は、ドイツ軍のベルギー侵入を確認すると、8月4日にドイツに宣戦布告した。

アメリカ合衆国の参戦は、3年近く後の1917年4月6日！

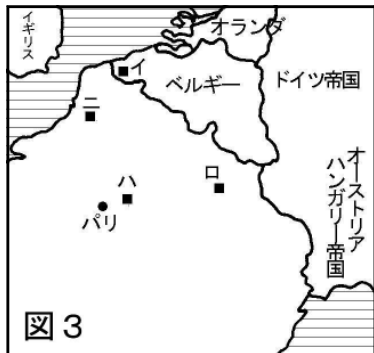
## 「クリスマスにまた……」 しかし4年以上にわたる悲惨な戦いとなった

交戦国は近接し、鉄道網・道路網も発達していたから、両陣営とも短期決戦での勝利を信じ、開戦は真夏だったが、クリスマスには国に帰れると誰もが思っていた。以下に第一次世界大戦前半の主な戦いについて簡単にまとめる。



①～⑤は頻出の戦場である。位置を確認せよ。

- 1) 東部戦線 ①【16: 】 1914.8でドイツ軍はロシア軍を破ったが、戦線はそのまま膠着した。(図2)
- 2) 西部戦線 イ～ニは図3の記号である。図2中の長方形を拡大したものが図3
- ②【17: 】 (ハ) の戦いで阻止。1914.9 仏を早期に倒して露に全力を投入し短期決戦を期したドイツの作戦(シュリーフェン・プラン)は挫折!
- ③【18: 】 (イ) の戦い 1914.11 ベルギー西部 ドイツ軍が人類史上初めて【19: 】を使用
- ④【20: 】 (ロ) 要塞の攻防戦 1916.2-12 西部戦線最大の激戦地 ドイツ軍の強襲にフランス軍は守り抜く。死傷者 フランス軍36万、ドイツ軍34万
- ⑤【21: 】 (ニ) の戦い 1916.7.1～11.19 死傷者計120万! 連合軍からドイツ軍への大攻勢 勝負つかず! イギリス軍、初めて【22: 】を使用



### 3) 塹壕戦と言われた。

従来は一般に侵攻する側が有利とされてきた地上戦闘は、大砲、機関銃の発達で、陣地を設営して守る側が有利になる。そのため戦線は膠着化、長期化した。

多くの兵士が「塹壕足」に悩まされた。足を長時間、冷たい湿気のある不潔な環境におくと一種の感染症を起こすことがある。血流が悪くなり皮膚は赤か青に変色、適切な治療が受けられないと壊疽となり、切断するしかなくなる。現代の日本でも水害避難時に長靴を履くときは水が入らないように隙間をガムテープなどでぐるぐる巻きにすると良いと言われるが、長期戦になったら持たない。

4) ドイツは1917年2月以降、無制限潜水艦作戦を宣言する。第一次世界大戦は総力戦である。その意味は第一次世界大戦後半の経過とともにNo.170で詳述する。

【MEMO】